

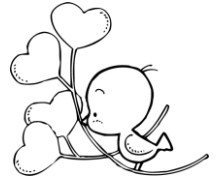


園だより

平成31年4月25日
佛教大学附属幼稚園

体の栄養、心の滋養

園長 田中典彦



花が去ってゆくと、嵯峨野は新緑に包まれます。本当に素晴らしい環境に恵まれた幼稚園だと自慢しています。その園にたくさんの新しいお友達を迎えました。一気に園に活力が満ちます。「しばらくは、あちらこちらで泣き声ですよ」と先生方の言うとおりの、お母さんから離れるのがつらくてしがみついて泣いている子、あまりにも環境が違うので泣きじゃくる子、いろんな光景が見られる時期です。泣くという行動は、言葉にならない抵抗と自己防御を主張する大事な表現なのです。みんな家庭という社会から、初めての一步外の社会への冒険に不安を感じているのです。しかし心配は要りません。子どもの包容力はすごいのです。ちょっとした周りの人の心遣いによって、大きく変わってゆかれます。

ここで、インドに伝えられているお釈迦様のお話をしておきます。お釈迦様の本名は、ゴータマ・シッダールタといいます。どうしても自分の生きる道を求めたいと修行することになったのです。しかし、六年間も苦行という修行をしていたシッダールタは、修行によって自分の求めていた生きる道を求めることに自信をなくしました。そこで修行を中止して、ネーランジャラー（尼蓮禅河）というきれいな水の流れる河で身を清め、疲れた体を休めようと近くのアゼ道に座り込んでいたのです。するとある村の方から、スジャータという娘さんが森の神様にお供えするために乳粥を頭にのせて、歌を歌いながらやってきたのです。

「琴の糸 張りつめすぎたら 切れます 弛めすぎたら 音が出ん

人生またまたかくの如し」と。

琴の命は弦、つまり糸です。いい音を出そうとしてあまり張りつめすぎると弦を切ってしまうこととなります。弦を切ってしまうと、それは琴の大事な命をなくしてしまうこととなります。「じゃあそれが大事だから弛めたままにしておこう」と考えてそのようにすると、今度は琴があってもあの素晴らしい音色を出すことができません。つまり琴の意味や価値がないこととなります。人生もちょうどそのようなものであるということです。修行！修行！といって、あまりにも身体を無理させたなら、肝心の最も大事な命を失ってしまうこととなりますよ。だけど逆に大事だからといって何もしないでぼうーっとしていたら、人間として生きている意味や価値がなくなりますよ。と私たちの生き方を教える歌だったのです。

スジャータからグラス一杯の乳粥とこの歌を施されたシッダールタは、身も心も一気に回復したのです。まさに体の栄養と心の滋養を与えられたのでしょ。そこで河の近くにあった大きな木の下に座って静かに心を調える修行をすることにしました。そして今度は一週間で求めていた自分の生きる道に目覚めたといわれています。身心を調えることこそが大事なのだと思います。

子どもさんには「元気、やる気、勇気」を施してあげてください。当園では、「明るく、正しく、仲良く」の仏教精神の元、精一杯遊んで元気、いろんなことに興味をもってやる気、そして新しいことに挑戦して行く勇気をお育てしたいと保育に取り組んでまいります。

保護者のみなさまにも、どうぞご理解とご支援をお願いいたします。